

図書館だより

北海学園大学附属図書館報 第30巻3号(通巻187号) 2008.10.23

vol. 30

NO. 3

Bulletin of the Hokkai-Gakuen University Library

中川かず子

2 いまだ落ち着かない ローマ字表記をめぐる議論

藤島 隆

3 きょうは何の日? 「10月27日」

佐々木正規 北原 博

4 私が薦めるこの1冊

イチオシ!

5 データベース紹介

6 レファレンスカウンターフル活用術

図書館の仕事

7 情報管理係

平八重宏幸

8 夕暮れの公園にて

編集後記

いまだ落ち着かない ローマ字表記をめぐる議論

文＝中川かず子

(なかかわ かずこ／人文学部教授)

明治18年、矢田部良吉らによる「羅馬字会」は米国人のDr. James C. Hepburnの提唱する「ヘボン式」ローマ字を普及させるための『羅馬字早学び』という小冊子を著した。すぐさまその綴り方に反論した「日本式」ローマ字論者の田中館愛橘博士は自身の所属する理学協会雑誌に「羅馬字意見」を掲載した。昭和12年まで50年も続いた「ヘボン式」と「日本式」(のちに「訓令式」に一本化)のローマ字論争の始まりである。

現在、ローマ字は契約書やカードのサインのほか、人名、地名、固有名詞に主として使われている。街中を歩くと、看板や駅名、案内表示に漢字に併記するローマ字がある。また、私達は日常的にパソコンを使用し、多くの人達はローマ字入力で文章を作成するが、ヘボンなのか訓令なのかはあまり問題にしていない。ローマ字論争が終焉してから70年が経過したわけだが、国もローマ字の方式にさほどこだわってこなかった結果、いくつか細かい問題が積み残しされたままになっている。特に才段の引き音(長音)は両方の方式で「ô」となるが、実際は、「oo, ou, oh」などの表記も自由に?使われている。「大友、大原」等の姓の最初の「オオ」をどう表すかという問題である。外務省のパスポートは概ねヘボン式として知られているが、機械に通す関係が何かで長音符号の「」がない。その他、国内の案内標識などもヘボン式が優勢であることには違いないが、不統一の綴りもよく目に付く。札幌の地下鉄の案内板には、TozaiとTôzai、TohoとTôhōの二通りの表記が見られるし、“nanboku” Line(南北線)という訓令式(ヘボン式は“namboku”)綴りも混じっている。後続が「チ」で直前がつまる音の場合、ローマ字ではitchi, atchi(ヘボン式)、itti, atti(訓令式)が原則だが、パソコンではicchi(itti)、acchi(atti)のほうを入力するのが一般的であろう。

今年の夏、ローマ字をめぐる問題を再認識する機会があった。一つは、6月に行なったカナダレスブリッジ大学研修生(経営学部)への日本語授業の時であった。短期

間の研修なのでローマ字を用いて授業をという要望を受けたものだが、複数の日本語教師が関わったため、学習者に思わぬ混乱を引き起こしてしまった。外国人に対する日本語授業でローマ字を使用することは国内では稀であり、教科書や辞書の編集経験のある人でなければローマ字正字法にはあまり興味がない。「これはおおきいです」「牛乳をのみます」「おとうさんとおにいさん」などの文は、「kore wa ôkii desu」「gyûnyû o nomimasu」「otôsan to oniisan」とすべきところを、「oukii」、「giuniu」、「wo」、「otousan」、「onisan」と無意識に書いてしまう。学習者からの質問を受け、慌てて教師達にローマ字綴りの統一を呼びかけた経緯がある。

もう一つは、以前に筆者が書いたローマ字に関する論文を読んだと思われる方から、最近になって、ローマ字と歴史仮名遣いに関する提言を何度かメールでいただいたことだ。このK氏は長年出版社勤務の経験があり、学術雑誌にもインターネットにもローマ字表記に関する問題の指摘、さらに積極的な提言を行なっており、100年以上前のローマ字論争を思い起こさせるほどの勢いとエネルギーを感じさせる。

ローマ字は難解な漢字仮名混じり文を読む苦労を緩和させるための国字改革の一環で普及し、特にヘボン式は、ジヨウ、ジャウ、チャウ、ゼウ、デウ、デフはすべて「jô」、ジとチ、ジャとチャも「ji」「ja」となるなど表記法の単純化をもたらした。しかし、これまで述べたようにローマ字正字法は普及が徹底しているわけではない。ローマ字とはいえ、日本語の文字体系に組み込まれている現状を考えると、無関心であるわけにはいかない。問題を見据えて解決の方向性を探る議論が必要だろうし、そうになるとまだ論争は続くのかもしれない。

きょうは何の日？ 「10月27日」

文＝藤島 隆

(ふじしま たかし／経済学部講師)

人気司会者のお昼のテレビ番組に、このような名前のコーナーがあったように思う。大学に通う地下鉄の吊り広告をみても、11月10日は「エスカレーターの日」だとあった。その他、いろんな記念日があるものだ。そこで、わたしは担当している図書館学課程の後期の授業で、学生達に「10月27日は何の日か知っていますか?」、と質問することにしている。

「文字・活字文化振興法」という法律が平成17年の第162回通常国会で成立し、7月29日に法律第91号として公布、同日から施行された。わたしが富山大学附属図書館の事務部長をしていたときに、文化庁次長名で各関係機関に通知されたが、制定の経緯を知らなかったので何か違和感を持ったものであった。

日本図書館協会は、法案の時点で声明を出し、「文字・活字文化はすぐれて思想の自由、人権尊重に関わることです。国民一人一人の内面に関わることであり、これを法律により振興することは、その意図することとは逆の結果も招きかねない側面があります」、と関係者に注意を促すとともに、国会審議のなかで慎重に検討することを要望している。わたしが奇妙な感かしたのは、まさにこの点であった。

文字・活字文化振興法は12条からなる短かなものだが、文字・活字文化の振興を図ることにより、「知的で心豊かな国民生活及び活力ある社会の実現に寄与すること」(第1条)を目的としているという。第7条には国及び地方公共団体は公立図書館の運営の改善・向上のために必要な施策を講ずることや、学校図書館の図書館資料の充実及び情報化の推進に努めること等が規定されている。そして、10月27日を「文字・活字文化の日」(第11条)と定められた。

平成19年になって、10月、日本新聞協会や全国出版協会などの肝煎りで「文字・活字文化振興機構」設立総会が開催された。会長には資生堂名誉会長の福原義春氏が就任、2010年を国民読書年とすることも決定した

という。

現在、11月3日の「文化の日」を中心に前後2週間は読書週間(読書推進運動協議会主催)となっている。全国の公共図書館では多彩な催し物が行われている。これは昭和22年から始められているが、戦前も日本図書館協会の主唱で11月1日から1週間、図書館週間が実施されていた。

ところで、「図書館記念日」というのがあるのをご存知だろうか。4月30日が図書館記念日となっている。これは昭和25年に図書館法が公布されたのを記念して定められたもので、これに続く5月を「図書館振興の月」としている。

戦前も「図書館記念日」はあった。第1回の図書館記念日は昭和8年4月2日であった。これに先立つ昭和6年4月2日、午後2時から2時間程、帝国図書館長(日本図書館協会理事長)の松本喜一は昭和天皇に『図書館の使命』と題する御進講を行っている。彼はこのときのことを、「この栄誉は御進講者一人の栄誉たるのみならず、実に我が図書館界が蒙れる空前の光栄たるべきを思ひ、即ち斯業の開拓に全生涯を捧げたる諸先輩、並びにわが同僚諸兄の多年の努力が、畏くも天聴に達したる結果に外ならざるを信じ」と感激して語っている。

昭和6年5月に盛岡市で開催された東北・北海道図書館聯盟の第4回大会において、市立函館図書館長の岡田健蔵らによって、「四月二日ヲ『図書館デー』ト定ムル件」が提案され、満場一致で可決され、実際の実施は明年度からということになった。

翌7年の第26回全国図書館大会で、再度東北・北海道図書館聯盟から「図書館デー」の件が提出され、審議の結果「図書館記念日」として定められた。その辺の図書館界の事情は、北広島市図書館長をされていた坂本龍三先生の著書『岡田健蔵伝：北日本が生んだ希有の図書館人』講談社出版サービスセンター、平成10年刊に詳しい。

私が薦める
この1冊

加太こうじ

『わたしの日本語』(立風書房 1993年)

紙芝居を見たことはあっても、路上の紙芝居屋を見たことのない人が多くなってきていると思う。そのようなひとでも、「黄金バット」という名は耳にしたことがあると思う。加太こうじはその制作者で、紙芝居屋の世界では大御所のようなひとであった。また、紙芝居を描いていた若き日の水木しげるの先生でもあった。

1918年(大正7年)に浅草で生まれ、1998年(平成10年)に亡くなっているから、昭和という時代を丸ごと生き抜いた人と言える。

昭和30年代半ばまでは、小学校の終わる時間になると、自転車の荷台に紙芝居用具一式と駄菓子などを積んで紙芝居屋が住宅街へやって来て続き物の紙芝居を演じていたが、テレビが普及するにしたがい紙芝居屋は商売ならなくなってしまう。紙芝居では喰うことのでき

文=佐々木正規

(ささき まさき/工学部教授)

なくなった加太は物書きになって後半生を生きた。

本書は著者晩年の作で、「日本の古い言葉や、渡来した物に付随して作られたり、使われたりした言葉。／言葉の移り変わり。／そして未来への展望。／それを縦糸とし、それにさまざまなエピソードを配して一冊にまとめた」とまえがきに書かれている。

露天商(テキヤ)の口上・隠語・落語・講談・浪花節や芝居の名台詞などを題材とした東京下町の庶民から見た話し言葉を主に扱った評論・随筆と言える。

絶版となっているが、本書は雑誌「思想の科学」の1992年1月号から12月号に連載された「日本語の達人」を加筆、訂正したもので、これは大学の図書館にも収蔵されている。

私が薦める
この1冊

ゲーテ

『ファウスト』(柴田翔訳、講談社、1999年ほか翻訳多数)

『ファウスト』は大学1年生の時に一度挫折した作品である。しかし、しばらくして「再会」したとき、『ファウスト』は私の運命を変える作品となった。私が専攻を変え、文学研究という無間地獄にはまったのは、この作品のおかげなのである。

台詞とわずかなト書きから作品世界を読み取らなければならぬ戯曲は、当時の私には読みにくい文学形式であった。しかも、時間軸に沿って事件が展開する第一部はともかく、第二部では人類の営みの諸相が並べられており、筋の展開を楽しめるような作品ではない。さらに悪いことに、私が手にした本は落丁本であり、第二部に飽いていた私は、あっさりと投げ出した。ところが、教育学の授業で『ファウスト』を取り上げた先生がいた。自分の自我を人類の自我にまで拡大しようとするファウスト。

文=北原 博

(きたはら ひろし/法学部准教授)

それは社会と自分との関係にもやもやとしていた私の心を捉えた。大学生として学び体験する中でこの作品と向かい合う素地ができてつあったのだろう。「再会」後は何度も読み返し、そのたびに新たな発見と感動がある。今でもこの作品を開くたびに、安逸を貪ろうとする自分を揺さぶられる。

本との出会いは人との出会いと同じで、タイミングが合わなければうまくいかない。出会うためには自分自身を磨いておく必要があるし、そもそも出会いを求めなければならない。大学の4年間は長編に取り組む時間と心の余裕がある時である。この絶好の機会を利用して、様々な古典文学に触れ、自分の一冊に出会ってほしい。

イチオシ! データベース紹介

日経BP記事検索サービス

日経BP記事検索サービス

今年度より始めましたデータベース紹介ですが、今回で3回目の紹介となります。

みなさん、一度は図書館のHPからデータベースを見てくれたでしょうか。

今回はさまざまな分野で活用できる日経BP記事検索サービスをご紹介します。

このデータベースは日経BP社が発行している、日経ビジネス、日経コンピュータなどの雑誌記事の検索はもちろん、業界動向ウォッチで、最新のビジネス情報を知ることができ、就職活動の企業分析に役立ちます。

その他にも、パソコンの操作方法や技術向上できるパソコンスキルアップ講座があり、日常のエクセル作業やワード作業などに困ったときなどにも非常に便利です、こちらを使えば実社会でのPCスキルを習得できます。

【トップページ】

ここにキーワードを入力して検索

図書館では、オンラインデータベースの使い方を説明するガイダンスや、専門講師による講習会を行っています。詳しくは図書館ホームページ、館内掲示物等をご覧ください。

本がない！！
そんなあなたの悩み解消します。

レファレンスカウンターフル活用術

レファレンスサービスとは、学習・研究・調査をする際に必要となる資料探しのお手伝いをするサービスのこと。具体的には、OPACの使い方や資料の探し方など、図書館の利用方法全般を説明したり、参考図書やオンラインデータベースを使って、探している文献に関する

情報を調査、あるいは他の図書館・機関などの相互協力サービスを利用して、本館に所蔵していない資料を提供したりと様々なサポートを行います。

こんなときに便利！！

☆必要な文献の探し方がわからない。

(例) ある資料の参考文献欄に、小林敬孝「原価管理とVE」『会計』第137巻、第3号、62～64ページと表示されているが、どうしたら手に入れられるのか？

☆欲しい資料がOPAC（蔵書検索）で見つけれない。

(例) OPACで検索しても、ヒット数が0件だったが、手に入れられないか？

☆他の図書館（機関）が所蔵している資料が見たい。

(例) データベースの「Nacsis Webcat」で検索したら、本館には無いが、他の図書館には所蔵があった。手に入れるにはどうしたらよいか？

その他、図書館・資料の探し方でわからないことがあれば、
図書館2階のレファレンスカウンターへ！

オススメ 文献検索ツール（全て図書館ホームページより接続可能）

図書・雑誌の検索

・ Nacsis Webcat

全国の大学図書館等が所蔵している図書・雑誌を検索できる。（収録件数1億件突破）

・ 国立国会図書館

国立国会図書館が所蔵する図書・雑誌を検索できる。

雑誌論文・記事の検索

・ Cinii

全国の大学図書館等が所蔵する雑誌や大学紀要などの記事・論文を検索できる。

・ MAGAZINEPLUS

一般紙から専門誌・大学紀要、海外誌紙まで幅広く検索できる。

レファレンス申込書

レファレンス申込書	
【学内・ ○ 】	
【発行・ ○ 】 文献所蔵調査・事項調査	
受付日: 平成20年4月1日 受付番号: ●後が記入します	
<input type="checkbox"/> 現金 <input checked="" type="checkbox"/> 私費 <input type="checkbox"/> 公費 研究用紙品費・実験費等費・その他()	
* 特内を可能範囲記入してください。 * お申し込み書に併せて後記入してください。	
氏名	北海 太郎
所属	人文学部
学号	1234567
電話	011-841-1161
Fax	011-824-9181
E-mail	aaaaaaaaa@hokkai-u.ac.jp
* 書名(題名)を必ず記入ください。 * 検索ツールについては、詳細レファレンスのお申し込みについてをご参照ください。	
これまでの調査でわかったことをご記入ください。また、関連資料がありましたら貼付するかその内容を記入ください。	
検索	インターネットで情報検索 p. 53
書名	ゼミナル民法入門
著者名	道垣内 弘人
出版社	日本経済新聞出版社 出版年 2008.4 ISSN 4474001540
【注意】 学生の相互貸借図書館利用範囲内のみとなります。	
誌名	Journal of Economic
出版社	Oxford University ISSN 447444457
発号年	2巻 2号 (通巻100号) 2002年4月1日
ページ	p. 249 ~ p. 255
著者名	Bob. Jessop,
題名	Surveying economic geography
種別	
検索キーワード	民法
* この欄に記録された個人情報は、図書館業務以外の用途には使用いたしません。	
北海大学図書館	

カウンター、またはレファレンス係に置いてあります。太字の部分を記入。

図書の場合はこちらに記入

雑誌の場合はこちら

コピー取り寄せならここも記入

「図書館の仕事」

情報管理係「経常費班・研究費班」

みなさんこんにちは。今回みなさんに紹介するのは、経常費班・研究費班という係です。なにやら聞きなれない名前の係ですが、目にする機会のない方も多いかもしれません。それもそのはず。普段みなさんがあまり入ることの無い、3階の事務室にあるからです。(3時になるとソロソロと職員が出てくる、3階閲覧室のドアの向こう側です)

「経常費班」では、主にお金に関わる業務(庶務・会計等)や、図書館の本棚に並んでいる図書に関わる業務(選書・発注・納品受入等)を行っています。3階にある購入希望図書の処理も、この係の担当です。

「研究費班」では、主に先生方が研究や授業のために必要となる資料の整理業務を行っています。

短い紹介ではありますが、図書館3階のガラス張りの壁の奥にはこんな係があることを、知っていたければ幸いです。

夕暮れの公園にて

文=平八重宏幸

(大学院 法学研究科 政治学専攻 修士課程)

銭湯帰りにふらりと立ち寄った古本屋で、文庫本を見つけた。

滝田ゆう『昭和夢草紙』（新潮文庫）。

『寺島町奇譚』を代表作に持つ著者の少年時代を軽妙な文章とイラストで描き出した作品である。短いエッセイが何本も収録されている。

20数年前に発行された本なのに、新品のように綺麗な本だった。著者の漫画のファンである私は迷うことなく購入した。

湯上がりの温かい体で読みたくなって、帰り道にある公園に立ち寄り。

日の入りが近く、人影もまばらな公園のベンチに座り、ゆっくりとページをめくる。

自分の知らない昭和がそこにはあった。

私が少ししか生きたことのない、昭和という時代。

駄菓子屋、路地裏、河川敷、夜の町…。

触れようにも手の届かない、著者の記憶の中だけの世界である。

文章とイラストのなせる技なのだろう、読んでいる自分もどこか懐かしい気分になる。

いつか私もこの著者のように、郷愁に満ちた感情で自分にとっての『古き良き時代』を思い返すことがあるのだろうか。

その時、自分はどこにいて何をしているのだろうか。

この本を読んだことをそれまで覚えているだろうか。

最後のページを読み終わり顔をあげると、すっかり日の暮れた公園には、もう誰もいなかった。

第49回 図書展示会

日本の 世界遺産展

期間：2008年10月1日
～2009年3月31日

場所：図書館1F自由閲覧室前

日本は1992年6月30日に世界遺産条約を受諾し、条約締約時には125番目の締約国として仲間入りしました。日本ではこれまでに「知床」など3件の自然遺産と、「古都京都の文化財」など11件の文化遺産が世界遺産リストに登録されております。

今回の展示会では、これら日本の世界遺産に関係する所蔵資料の中から、大形図版や100年以上も昔の白黒写真、絵巻物などを中心に集め、日頃慣れ親しんでいる世界遺産とは一風異なる姿を展示しております。

ぜひ一度、図書館まで足をお運びください！

編集後記

秋がやってきた。秋は○○の秋と言われるが、恥ずかしながら基本的に食欲の秋が毎年思い浮かぶ…読書の秋は…

残暑が厳しかったせいなのか？ 自分の食欲は更に拍車をかけて増している（言いわけ）。ちなみに食欲が減退したことは人生で一度もない（笑）。

そこで気になるのが体重…

ダイエットも昔はしたけど体には決して良くない。食べるものを抑制したり、好んでいないことをすることはストレスが溜まる一方であった。

食べるということはとても重要だとダイエットを何度も試みる

なかで気がついた。

でも今の風習というものか、デカ盛りやドカ喰いという言葉が世間を賑わす一方で、メタボ、メタボ、メタボ改善と世の中の食に対する意識が混迷している気がする。自分自身もデカ盛りという言葉への反応はかなりのものである。

このままでは、マズイ！

『日本人の食育』本館開架（請求記号498.5/HAS）を読んで食に対する意識を変えなくては、メタボ予備軍からメタボ1軍に昇格してしまう（汗）

北海学園大学附属図書館報 図書館だより 第30巻3号（通巻187号）

本館 〒062-8605 札幌市豊平区旭町4丁目1番40号 工学部図書室 〒064-0926 札幌市中央区南26条西11丁目1番1号
TEL (011) 841-1161 (本館内線) 2273・2274・2275 (工学部内線) 7813・7814 印刷所：(株) アイワード